支笏湖の良質な水を使ったクラフトビール。支笏湖の周囲にある山々が、ラベルのモチーフとなっています。

「支笏湖ビールが地元を好きになる一助になれば」

佐藤 暁子（さとう あきこ）さん

ビールと山をこよなく愛する2児の母。「ちとせまちなかビジネスコンテスト 2024」でグランプリを受賞した。

――クラフトビールを作ろうと考えたのは、どんな経緯からでしょうか。

市民の皆さんに、支笏湖の存在を再認識してほしかったからです。千歳の水の源として生活を支える支笏湖を、もっと大切にできないかと考えました。支笏湖の水で作ったビールを通じ、「このまちにはビールを作れるほどきれいな水があるんだ」と知ってもらい、より地元のことを好きになる一助になればと思っています。

――ラベルの絵が、ビールの種類ごとに違いますね。

私は登山が大好きなので、ラベルの絵に支笏湖の周囲の山を選びました。山上から見る支笏湖の美しさや登山がどれだけ体に良いかをもっと広めたいので、ラベルに「山に登ろう」とメッセージを込めています。

――支笏湖での今後の取り組みについて聞かせてください。

今は委託醸造という形ですが、いずれは支笏湖エリアに自前の醸造所を持ち、合わせてビアパブのようなお酒を飲みながらコミュニケーションできる場を作りたいです。支笏湖に来た方が、ただ湖畔を歩いて「綺麗だったね」で終わらず、支笏湖がどんな場所でどんな楽しみ方があるのか、ビール＋αでピーアールしたいです。

――まちなかでの取り組みはいかがですか。

同様のお店を市街地にも出店し、まちなかと支笏湖をつなげる場にしたいと考えています。千歳は、市街地から30分も車を走らせれば、支笏湖という景勝地が広がっている。それってすごく素敵で、魅力的だと思いませんか。これをビールとともに千歳に泊まる旅行客やビジネス客に訴求して、「今度千歳に来るときは支笏湖を目的に来てみよう」「ここで1泊するプランを立ててみよう」と思ってくれる方を一人でも増やすことが、大きな目標です。

ちとせまちなかビジネスコンテスト

グリーンベルト周辺の「まちの顔エリア」の活性化につながるビジネスプランを審査します（応募総数34件）。佐藤さんは、支笏湖の良質な水を使ったクラフトビールの販路をまちなかに拡大し、千歳のまち全体を活性化するビジネスプランを提案。見事グランプリに輝きました。

第33回

先生、教えて!

CHITOSE CITY HOSPITAL
市立千歳市民病院 地域医療連携課
☎(24)3000 内線8138

大腸がんのお話①

市立千歳市民病院
外科医長 坂本 聡大

日本人が最も多く罹患するがんである「大腸がん」についてお話しします。

大腸は消化管の最後尾にある1.5ｍほどの臓器で、主な仕事は水分を吸収して便の形を作ることです。大腸は結腸と直腸に分けられ、結腸はさらに盲腸、上行結腸、横行結腸、下行結腸、S状結腸に分けられます。

大腸がんは、腺腫（良性のポリープ）ががん化して発生するものと、正常な粘膜から直接発生するものがあります。大腸がんの発生には、環境と遺伝のどちらの要因も関わっています。環境要因では高たん白食、高脂肪食、低繊維食、飲酒、喫煙、運動不足などが大腸がんのリスクとして知られています。

早期の大腸がんは無症状の場合が多く、進行すると症状が出現します。症状は血便、便秘、下痢、貧血などです。特に大きくなるとがんにより大腸が詰まる腸閉塞になり、腹部膨満や腹痛、嘔吐が生じます。

自覚症状のない早期の大腸がんを見つけるため、40歳以上の方は便潜血検査による定期検診が推奨されています。便潜血検査はがんからのわずかな出血を検出できます。一度でも陽性となった場合は大腸内視鏡検査を行う必要があります。便潜血陽性を痔のせいと自己判断してしまうと、大腸がんが進行してしまうことがあるので注意してください。大腸内視鏡検査は大腸の内側の粘膜を詳しく観察できます。病変があれば一部を採取して病理検査を行うことで確定診断となります。

次回は大腸がんの治療についてお話しします。